平成25年2月21日開会

平成25年2月21日閉会

第1回知多南部広域環境組合議会定例会会議録

知多南部広域環境組合議会

平成25年第1回知多南部広域環境組合議会定例会会議録目次

2月21日（第1号）

議事日程	1
出席議員の番号・氏名	1
説明のため出席した者の職・氏名	1
事務局職員出席者	2
開会	2
会議録署名議員の指名について	3
会期の決定について	3
諸報告について	3
一般質問について	3
議案第1号及び議案第2号を一括上程	13
（提案説明）	13
議案第1号を採決	17
議案第2号を採決	17
定例監査報告	17
閉会	18
会議録署名議員	19

会議に付された件名

1. 会議録署名議員の指名について
2. 会期の決定について
3. 諸報告について
4. 一般質問
5. 議案第1号 平成24年度知多南部広域環境組合一般会計補正予算第1号
6. 議案第2号 平成25年度知多南部広域環境組合一般会計予算
7. 定例監査報告

平成25年2月21日（木曜日）

第1回知多南部広域環境組合議会定例会会議録
（第1号）

平成25年2月21日 午後2時00分開会

1. 議事日程（第1号）

- 日程第1 会議録署名議員の指名について
- 日程第2 会期の決定について
- 日程第3 諸報告について
- 日程第4 一般質問
- 日程第5 平成24年度知多南部広域環境組合一般会計補正予算第1号
- 日程第6 平成25年度知多南部広域環境組合一般会計予算
- 日程第7 定例監査報告

2. 出席議員は次のとおりである（16名）

1番	石川英之	2番	山本半治
3番	新美保博	4番	山内悟
5番	成田勝之	6番	相羽助宣
7番	中井保博	8番	鈴川和彦
9番	榎戸陵友	10番	鳥居恵子
11番	丸田博雅	12番	千賀荘之助
13番	島田昭夫	14番	加藤美奈子
15番	石原壽朗	16番	森田義弘

3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（23名）

管理者	榎原純夫	副管理者	片岡憲彦
副管理者	石黒和彦	副管理者	山下治夫
副管理者	榎山芳輝	副管理者	藤本哲史
会計管理者	森昭二	事務局長	小坂和正
事業課長	谷川治	専門監	浅川邦治
事務局職員	前田克康	事務局職員	鈴木直樹
事務局職員	澤田拓	半田市環境監	折戸富和
半田市クリーンセンター所長	加藤明弘	半田市環境課長	間瀬直人

常滑市環境経済部長 都築一雄

常滑市生活環境課長 澤田忠明

南知多町厚生部長 早川哲司

南知多町環境課長 田中章介

美浜町経済環境部長 久野元嗣

美浜町環境保全課長 齋藤 博

武豊町環境課長 木村孝士

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（2名）

書記長 手 島 齊 書記 滝 本 勝 仁

午後2時00分 開会

議長（石川英之議員）

ただいまから、平成25年第1回知多南部広域環境組合議会定例会を開会いたします。

開会にあたり、管理者から挨拶の申し出がありましたので、これを許します。

管理者（榊原純夫君）

改めまして皆さん、こんにちは、管理者の半田市長の榊原純夫でございます。

議長のお許しをいただきましたので、組合議会の開会にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

当組合は、平成22年4月1日に設立をされ、平成29年4月の供用開始を目指し、広域ごみ処理施設の建設事業を進めて参りました。今年度になり環境アセスメントによる現地調査結果から建設予定地で事業を継続するには新たに環境面を配慮した対策が必要であることが判明をいたしましたため、事業スケジュールを変更し、供用開始の予定時期を平成34年4月とさせていただきました。また、対策工事には当初予定をされていない大きな費用を要することから再度、施設建設のための代替候補地を組合市町より選定し、現半田市クリーンセンターの予定地と費用、スケジュールそしてリスクなどにつきまして、比較検討を行っているところでございます。このような事業を進めていく上で起こるさまざまな課題には的確に対応し、問題の解決をはかり、正しい情報を議会の皆さま、住民の皆さまに説明し、ご理解をいただきながら事業に取り組んでいく所存でございます。最後に、本定例会では平成24年度の補正予算及び平成25年度予算の議案についてご提案させていただきます。後刻、事務局から説明をさせますのでよろしくご審議を賜りご議決を賜りますようお願いを申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

議長（石川英之議員）

ただいまの出席議員は、全員でありますので直ちに本日の会議を開きます。本日の議事日程はお手元にお配りしたとおりですのでよろしくお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名について

議長（石川英之議員）

日程第1、会議録署名議員の指名についてを行います。

会議録署名議員は、会議規則第75条の規定により、相羽助宣（あいば すけのり）議員石原壽朗（いしはら じゅろう）議員を指名します。

日程第2 会期の決定について

議長（石川英之議員）

日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。

本定例会の会期は、本日1日としたいと思います。

ご異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 諸報告について

議長（石川英之議員）

日程第3、諸報告についてを行います。

議案説明のため、地方自治法第121条の規定により、管理者、副管理者を始め、関係職員の出席を求めましたので、ご報告します。

次に、監査委員から議長のもとに、地方自治法第235条の2第3項の規定により、平成24年6月分から11月分までの例月出納検査結果報告書の提出があり、お手元にお配りしたとおりですので、これをもって報告にかえます。

日程第4 一般質問

議長（石川英之議員）

日程第4、一般質問を行います。

お手元にお配りした通告一覧の順に行います。中井保博議員の発言を許します。

7番（中井保博議員）

7番中井と申します。議長さんのお許しをいただきまして、先に通告いたしましたとおり、新ごみ焼却施設建設予定地の選定について質問をさせていただきます。

まず最初に、新ごみ焼却施設建設の今後のスケジュールについて質問をさせていただきます。

当初のこれまでのスケジュールであれば平成29年4月に供用開始の予定でありました。ところが、今回の半田市クリーンセンター周辺より環境基準を超えるダイオキシン類が測定され、建設予定地を再度、選定し直すことになりました。

今回のことにより、新焼却施設の稼働が遅れる可能性は高く、大幅にスケジュールが変わりますと、現在稼働しております各ごみ焼却施設の維持管理の仕方や費用にも多大な影響を及ぼすことは間違いありません。現在においては代替候補地の調査中であろうかとは思いますが、建設予定地をできる限り早く決定し、できる限りスケジュールのずれを少なくすることが各市町の負担軽減につながる最も大切なことと考えます。

当局におかれましては今後のスケジュールを遂行するにあたってどのような心構えをもってことを進めていかれるつもりであるのか、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

次に、新ごみ焼却施設を選定される際の選定基準について質問させていただきます。候補地については構成市町各関係者のご努力により、いくつかの候補地があるやに聞いておりますが、まず広域ごみ処理の目的の一つはそのスケールメリットを生かして、構成市町の費用負担をできるだけ低く抑えることであって、イニシャル・ランニングコスト含め、いかに安く将来にわたって安定的に各市町のごみを処理していくことが最大の目的であります。このことが候補地の選定に際し、最も重要な要素と考えておりますが、組合としてはどのような基準をもって選定していく考えであるのか質問とさせていただきます。

続きまして、透明性の確保及び情報公開の考え方についてお伺いしたいと思います。まずもって、これからの候補地の選定・見直しについては後々構成市町に遺恨を残すようなことがあっては断じてなりません。それぞれの市民町民が納得のいくような選定作業をしなければいけません。当然のことながら候補地の選定に際しては、センシティブな事柄をばらむことも予想されますが、誤解を招いて不必要に時間がかかったり、不要な問題を起

こすようなことは避けなければなりません。そして、それを避けるためにはやはり選定に係る作業や会議は公平性を保ち、どのような形でどのようにことが進んでいっているのか誰にもよく分かる形にしておくことが必要なことであると考えております。組合としては建設予定地の選定に際し、その作業の透明性の確保及び情報公開をどのように考えているのかご見解をお願いいたします。以上、新ごみ焼却施設建設予定地の選定について組合当局の基本的なお考えを伺いまして私の質問を終了します。よろしく申し上げます。

事務局長（小坂和正君）

それでは中井保博議員のご質問、主題1 ごみ焼却施設建設予定地の選定についての要旨1.「新ごみ焼却建設予定地の選定に関して今後のスケジュール選定基準、透明性の確保並びに情報公開の考え方について問う」についてをお答えいたします。

一つ目のご質問、今後のスケジュールについては平成34年4月の施設の供用開始を目指しまして、現在各市町から報告いただいた7候補地について調査業務を実施しています。調査の結果を踏まえまして選定業務及び関係者調整業務を実施し、建設予定地を決定していく予定でございます。二つ目のご質問の選定基準につきましては各候補地を環境面、用地買収面、経済面の3点で評価し選定をしていく予定でございます。三つ目のご質問、透明性の確保並びに情報公開の考え方については今後、建設予定地を決定していくにあたりましては組合議会へ経過報告すること、また組合のホームページ及び各市町の広報誌を活用することなどによりまして住民の皆様にも周知を図って参ります。以上で答弁とさせていただきます。

7番（中井保博議員）

ありがとうございました。あっさりとした答えであったのでちょっと拍子抜けしました。いずれにいたしましても、これからが大変なことであろうと思っております。具体的なことにつきましては、これからのことであるかと思っておりますので、またこの後に議員連絡会議ですか、議員連絡会議という説明会があらうと思っております。説明を伺ってですね、質問があれば質問させていただきたいと思っております。私の質問はこれで終わります。以上です。

議長（石川英之議員）

中井保博議員の質問を終わります。続いて山内悟議員の発言を許します。

4番（山内 悟議員）

続きまして2番手として一般質問を出させていただきました。内容は当組合の趣旨から

いって限定されていますので、かなり重複いたしますことをご容赦ください。主題は広域ごみ処理施設の建設について要旨1として建設予定地の変更に至る経過についてお聞きします。一つは建設予定地の見直しに至る経過について、半田市が独自で実施した環境調査を昨年の夏と10月にいたしました。そこでダイオキシンの調査結果が発表されたわけですが、川の上流で検出されたという件があって、このクリーンセンターが原因ではないんじゃないかという観測もその中で出ておりました。そのことと今回の建設予定地の変更との関わりについて1点お聞きします。二つ目に現クリーンセンターを掘り下げて建設した場合に、もともとリスクが考えられたと思います。何故、この予定地が建設予定地になったのかお聞きします。要旨2としまして建設予定地の選定の仕方についてお伺いします。一つは今、中井議員からも質問がありましたので重複しますが、通告してある以上、ちょっと披露させていただきます。一点目として候補地を選定する上での設置の条件について何があるのかお聞きします。二つ目に建設予定地の選定は、何箇所を選定を進めているのかをお聞きします。三点目に選定の判断として30億円の費用負担が今後、ここでやる場合に必要になる、それとのどちらが安いのかとの比較検討するという事です。場所がもし変わった場合に建設費用は変わるのではないかと考えられるのですが、その点についてお伺いします。要旨3としまして建設予定地の課題についてです。それぞれの建設予定地について今、検討がされていると思いますけども、その利点と欠点についてそれぞれどんなものが出ているのかをお答えください。最後に四点目としまして広域ごみ処理施設の今後について、これも今重なって質問することになりますけども、今後のスケジュールについて平成34年供用開始ということについて間に合うのかどうか。また、間に合わなかった場合にどうなるか、何が考えられるのかお聞きします。以上で議席からの冒頭の質問とします。

事務局長（小坂和正君）

それでは山内悟議員のご質問主題1. 広域ごみ焼却施設の建設についての要旨1. 建設予定地の変更に至る経過についての一点目、建設予定地の見直しに至る経過について半田市が実施した環境調査ではダイオキシン類の調査結果はクリーンセンターではないとの観測も出ているのではないかについてお答えいたします。半田市が行った環境調査はクリーンセンター敷地内の廃棄物層保有水と乙川水路の水質汚染の関連性についての調査を行ったものであります。調査結果は乙川水路の水質汚染は農薬等の影響が考えられると半田市から報告されています。現建設予定地における遮水工事は、ごみ処理施設建設に伴う基礎工

事等によって廃棄物層の保有水が地下水層へ漏えいするのを防止するためのものであり、この工事費がおよそ30億円かかると見込まれるため、再度新しい建設候補地を2市3町の中から選定し、現建設予定地と比較検討することとしたものでございます。次に要旨1の二点目、現クリーンセンターを掘り下げて建設した場合、もともとリスクがあると分かっていたのではないかと。何故、この場所が建設予定地になったのかについてでございますが、現建設予定地は最終処分場跡地であることが直ちに問題になるとの認識はなく、選定されてきました。今回、平成22年度から実施している環境影響評価の調査において廃棄物層保有水からダイオキシン類等が検出され、その対応策を検討してきたものです。続きまして要旨の2. 建設予定地選定の仕方についての一点目、候補地を選定する上で設置の条件は何があるのかについてをお答えいたします。各市町に候補地を挙げる際に次に述べる条件について全てを満足することとし、依頼をいたしました。スケジュール条件として平成25年度中に地権者、地元合意を得るのが明らかに困難な土地を除くこと、敷地面積として2.5ヘクタール以上で短辺が100メートル以上の平地を確保できる土地であること、土地の履歴として旧最終処分場や工場などにより土地の汚染リスクを有さない土地であること、アクセス道路として道路幅員9メートル以上のアクセス道路が確保できる土地であること、法的条件として砂防法、森林法、文化財保護法など、土地利用に関する法の規制を受けない土地であることなどの条件を設定しておりました。次に要旨の2の二点目、建設予定地の選定は何箇所を選定を進めているのかについてでございますが、各市町から7箇所の報告があり、選定事業を進めております。次に要旨の2の三点目、選定の判断は30億円の費用が必要とのことで、比較検討することだが、場所が変われば費用も変わるのではないかと。ご指摘のとおり、場所が変更されれば土地の購入費・借地代、造成費、収集運搬費、ごみ中継施設関連費といったものが変更となりますので、現在様々な角度から経済比較を行う必要があると考えております。続きまして要旨3それぞれの建設予定地の課題は何か。利点と欠点についてにお答えをいたします。各建設候補地の土地の現況によりまして環境面、用地買収面、経済面に関し、利点、欠点がありますので、現在、詳細事項について調査をしているところです。この本会議終了後に議員連絡会議を予定しておりまして、そこで一覧表としてご説明をさせていただく予定をしております。続きまして要旨4. 広域ごみ焼却施設の今後についての平成34年に間に合うか、間に合わなかった場合はどうなるか何が考えられるのかについてお答えをいたします。組合は平成34年4月の供用開始を予定し、事業を進めています。ごみ焼却施設の供用開始が

遅れば遅れるほど懸念されるのは、各市町それぞれのごみ焼却施設の老朽化が進み、延命化対策費用がより多く必要となることです。私どもは、事業スケジュールに沿って平成34年4月の供用開始を目指し、進めて参る所存でございます。以上で答弁とさせていただきます。

4番（山内 悟議員）

一問一答でよかったですか、順次ちょっと再質問させていただきます。建設予定地の見直しに至る経過については今、お答えいただきました。乙川水路で国の基準以上のダイオキシンが出たと、その建設予定地との関わりは違うということですが、しかし仮に矢板を立ててこの建設予定地を囲った場合に、その囲う費用で30億円概算でかかるだろうといわれています。それとの比較で他の候補地との関係でどちらが安いのか、またメリットがどちらがあるのかということが比較検討されるようですが、実際にこの例えば地域で、この現クリーンセンターの跡地で建てた場合は、矢板を立てて30億円にとどまらないんじゃないかと考えられるんですけども、例えば土壌改良だ、その土壌の焼却処理するだ、水を抜くだ、という費用が余分にかかるんじゃないかと思うんですが、そうじゃないんでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

30億円というものは、見積りの平均的な額なんですけども、実際、例えばここでやるとしてもその後のモニタリング、ある程度地下水は継続的に調査しなければいけないので、その地下水のモニタリングの費用であったり、こちらは廃棄物が埋まっていますのでその廃棄物の処理について例えばキレート処理が必要であったり、そういう費用は発生する可能性はございます。

4番（山内 悟議員）

仮にそうした場合の費用の額というのは概算出ていない、出せてないんでしょうか。というのは実は半田市が今、住民説明会を行っています。そこにはこの知多南部広域組合も同席して説明にあたっておられます。そういう中で、一昨日でしたか住民の中から30億円じゃ終わらないんじゃないかと100億円かかるんじゃないかなんていう声も出ていたんですけども、要するにその矢板を立てて食い止めればいいという範囲にとどまらないということも、やっぱり住民の不安から見れば出てくると思うんですけども、その費用負担というか概算は試算は出ていないんでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

現在、手持ちの数字としましてはモニタリングについては5年間で3,300万円程度の引き続き調査を行っていく費用が必要、あと廃棄物の処理についてはこちらも環境アセスメントに絡みまして、県とはどのような処理ができるか、例えば半田市の焼却場で焼却すれば汚染が取れるのかといったことを協議中でして、その額については今のところ把握は細かい数字は把握されていないですけども、処理の方法については協議の途中でした。

4番（山内 悟議員）

今のお答えですと30億円にとどまらないだろうと、プラス処理費などかかるだろうということでもありますから、後追い調査の費用がかかるだろうということです。さて、このクリーンセンターを掘り下げた場合のリスクについて当初はリスクを考えていなかったということです。それはこの組合の責任ではないと私も思います。というのは時代の要請でこのダイオキシンが急に大きな世論になってその結果、いろんな国も法律を後追いで作ってくるという経過があります。ですからその点では国民的な課題が社会問題に大きく浮上した経過ということも考えられます。ただし、この組合が2年前にできた時にその前に、もう国や愛知県が主導で13ブロックに広域化していくんだと大型焼却量の計画にしているんだという計画が先にあって、この組合でいうと後から設置されて大型処理施設の建設、また、その管理運営についての協議責任をですね、ここがもつということになったという経過は承知しています。しかし、その前からその13ブロックで知多半島の南部で一定の人口要件に基づいて焼却炉を大型化しようという計画は確かに県主導ではありました。しかし、その時に何故その半田市のクリーンセンターの土地に決まったということですけども、そこにはいろんな意見が実はあったと伺っております。そこでしかし、やっぱり半田市のこのクリーンセンターが一番条件的にいいという判断した理由というのは一体何だったんでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

組合設立前に知多南部広域ブロック会議という組織を組織してまして、ここの現予定地に決まったのは平成19年、その時の資料を見ますと16箇所位の候補地がございましてその候補地から3箇所に絞られています。残りの13箇所につきましては他の土地利用の計画があつたりいろんな諸条件により3箇所に絞られまして、その3箇所が現半田市クリーンセンターと知多南部クリーンセンターと半田の臨海部の企業所有地でした。その企業の所有地は、もともとプラント付き土地という条件がありましたのでそこは除外になり

ました。あと、ここの半田市と知多南部で収集運搬費の比較をしました時に、やはりごみは多いところに持ってくる方が費用が少なくて済むということで、収集運搬費の比較と当時の土地の建て替え用の約束はしていないですけども、建て替える場合にスムーズに建て替えられるかという土地の広さといったもので、こちらが現建設予定地に決められたというような記録になっています。

4番（山内 悟議員）

そうしますとね、今の答えは分かるんです。半田市が人口からいってもごみの絶対数からいっても多分一番多いでしょう。ですから、そういう意味で優先されたという経過は分からないでもないです。そうしますとね、先ほどいった候補地を次の要旨ですけど候補地を選定するうえでの条件設定の中に、タイムスケジュールに間に合うかどうかだとか2.5ヘクタールだとか汚染のリスクがどうのこうの、それからアクセス道路ということですけども、そこにはそのごみの量とその収集運搬に係る距離だとかそういう条件設定はなかったんでしょうか、ないんでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

今回の11月に各市町に依頼をした条件の中には位置的な制約は設けておりませんでした。当然、費用面の比較検討をしますので、そこでコスト面の有利不利というものが出るものと考えております。

4番（山内 悟議員）

コスト費用の面での検討の中に入るということですね。ところで、現在7箇所を選定されているということです。その後、組合の連絡会議の時にお話があるようですが、これはこの本会議では何故それが公表できないんでしょうか。公表できない理由は何なんでしょう。

管理者（榊原純夫君）

できないということはおざいませませんが、後ほど時間を取ってですね、こちらから現在の状況について資料に基づいて説明をさせていただくつもりでございました。そういうことで全体会議をやっていただくということになっております。ご理解いただきたいと思います。

4番（山内 悟議員）

後で報告があるようですので、それに委ねます。ところで場所が変われば当然先ほどいった収集運搬の距離も変わる、それから中継処理施設もいらなくなったりするかもしれない、そういうことで絶対数の建設費が変わってくると考えてよろしいんでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

はい、そういった面も含めて経済面の比較をする予定をしております。

4番（山内 悟議員）

今後のごみ焼却処理施設のスケジュールで、この間のダイオキシンの検出でもともと平成29年のものが平成34年に5年延びました。その件でそれぞれの古い老朽化した焼却炉でいうと長寿化の計画などの新たな費用負担などが懸念されるし、またどうなるのか今後不安な材料も抱えていると思います。しかし今後更に延びることがあれば、その費用負担というのは更に増えると思うんですけども、どの位この5年間延びた中で長寿命化に対する費用が余分にかかったかどうか分かりますでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

施設が3施設ありまして、新しさであったり現状も違いますので、各施設ごとに費用は異なると思いますが、組合の方ではその額は把握しておりません。

4番（山内 悟議員）

私は国や県の主導で、この大型施設を造られるということについては、もともと懸念をもって疑問をもっています。しかしこの当組合でも、もともと380トンの炉という計画がそれぞれ各市町のごみの減量の努力もあって300トンに修正されております。これは今、愛知県全体を見ましても平成10年をピークにごみの量というのは非常に減っております。一人当たりでいいますと1,148グラム、1日ですけど、それがピークにずっと減り続けて平成22年度でいいますと954グラムに落ちている。そういう中で住民の努力もあってごみの分別やリサイクルが進む中で、資源化が進む中でごみが減っております。今後この今の300トンの炉についても更に減っていく可能性は考えられるんじゃないかと思いますがいかがでしょう。

事務局長（小坂和正君）

ごみの量につきましては年度を進むごとに減っております。ですので、これが34年の4月の供用開始になりますと、その時の見込みの炉の大きさは300トンを下回る予定です。現在のごみ量の推計から見ましても毎年減量していく傾向にございますので、またそういった調査もごみ量の調査も施設が34年4月になったことによりまして推計もしていかなきゃいけない組合の事務だと考えております。

4番（山内 悟議員）

そこですすね、380トンから300トンに減った時にちょっとうる覚えですけども、

かつて220億円かかるんじゃないかといわれていた時期があったと思いますけども、それがどれだけ減って、更にごみがどれだけ減るとそれが費用換算としてどれくらい減っていくのか教えてください。

事務局長（小坂和正君）

細かい数字は少し分からないですけども、一般的にいつてトン当たり5,000万円位の建設費がかかると想定されています。ですので380トンの時は建設費のみで190億円、それにDBO公設民営方式をとっておりますので20年間の維持管理費であったり中継施設の建設費管理費を含めて何百億円という事業費がありました。それが例えば300トンになれば5,000万円なら150億円、ただ、小さくなったからそのまま率が減るのではなくて、やはり施設が小さいと他の施設の例を見ましても単価は少し高くなるような傾向がございますので、はっきりした数字はまだ分からないんですけども、その減った分に対して施設の建設に関してはコスト削減ができると考えています。で、今、総額でいくらになるかについてはまだ見積額のものが出ていませんので、数字は、申し訳ありませんがここでは分からないという状況です。

4番（山内 悟議員）

この広域環境組合は、もともとの趣旨は資源循環型社会をつくるんだということが大前提でなっている組合です。その目的を達成するものの一つとして大型化してというスケールメリットをいかすんだということでもあります。そうしますと資源環境型地域社会をつくるんだということの中で3Rの推進だとかごみの資源化減量化に取り組むことがますます当組合にとっての施設にしても費用が安くなるし、また私は持論としては小規模分散型の災害対応にも適していると考えておりますけども、この組合の中で以後その市民の分別収集やその資源回収の取り組みが今、市民が行っている中で大型化集約すればせかくのその市民の努力を無駄にするのではないかと思うんですけどもその点、いかがでしょうか。

事務局長（小坂和正君）

ご質問のとおり、循環型社会をつくるそういう計画のもとに減量をしてごみ量を算定して何年度のごみ量を出してそのごみ量にあった施設を造るという計画ですので、減量化は当然進めますし、減量化した結果の想定施設の規模しかできないものです。ですのでこの施設の大型化が減量化と相反するものとは考えておりませんし、各市町と、組合で組合施設を管理する、各市町についてはごみ政策というものを各市町の事務でもありますので、きちんとその計画通り施策を打っていただいて、そのごみ量に合った組合の施設で焼却し

てごみの処理をしていくという目的のもとに事業を進めております。

4 番（山内 悟議員）

先ほども紹介したように右肩下がりでごみ量は減っております。それは住民の努力もありますし、またいろんな企業の努力もあるかもしれません。しかし私この300トンがそのまま進んでいけばそれが逆に返って足かせになる事を非常に懸念しています。またそのあの特別売電特別高圧受電として発電施設も造るということで、むしろごみが足らなくなって重油をたくことがないような、あったケースがあったものですから、そういうことがないようにごみをなくす少なくすることがこの組合の目的だと思っています。したがって国や県の主導でもともと始まったこの広域ですけれども、広域のあり方も含めて再検討することは考えていないかどうかについて最後に質問します。

管理者（榊原純夫君）

ご指摘の点、お答えさせていただきます。決してそういう考えばかりではないということもございます。確かに広域的にやりますとスケールメリットが出て参りますが、だからといってじゃあ例えば知多半島に一つだけでいいかという、そうではないところがございます。例えば北部で何箇所かまたできる可能性があるのであれば、そういったところのお互いに補完をし合いながら施設を造っていくこともこれからの大事な観点だと思っておりますし、ご指摘のごみの減量について住民の皆様にも更に周知徹底をはかってですね、環境にやさしい施設となるべく取り組んで参りたいと思いますので、よろしく願います。以上です。

議長（石川英之議員）

山内悟議員の質問を終わります。

日程第5 議案第1号 平成24年度知多南部広域環境組合一般会計補正予算第1号について

日程第6 議案第2号 平成25年度知多南部広域環境組合一般会計予算について

議長（石川英之議員）

日程第5 議案第1号及び、日程第6 議案第2号の2議案を一括議題とします。

日程の順序に従って、当局の提案説明を求めます。

事務局長（小坂和正君）

それではただいまご上程いただきました議案第1号平成24年度知多南部広域環境組合一般会計補正予算第1号につきまして、ご説明申し上げます。

議案書の1頁をお願いいたします。

平成24年度知多南部広域環境組合の一般会計補正予算第1号は、次に定めるところによります。

第1条、歳入予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入予算の金額は第1表歳入補正予算によります。内容につきまして事項別明細書によりご説明申し上げます。4、5頁をお願いいたします。2.歳入1款1項1目衛生費分担金1,765万6千円の減額は1節清掃費分担金の減額で繰越金の追加補正に伴い、同額を組合市町分担金から減額するものであります。3款1項1目繰越金1,765万6千円の追加は1節繰越金で23年度繰越額の確定によるものであります。以上、歳入予算の総額に増減はございません。以上で説明を終わります。

続きまして、議案第2号平成25年度知多南部広域環境組合一般会計予算についてご説明申し上げます。議案書の7項をお願いいたします。平成25年度知多南部広域環境組合の一般会計の予算は次に定めるところによります。第1条歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ9,285万円と定めます。2頁として歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第1表歳入歳出予算によります。内容につきまして、事項別明細書により歳出からご説明申し上げます。16、17頁をお願いいたします。まず、3.歳出1款1項1目議会費でございますが、議員の報酬、視察用バスの借上げ料などで117万5千円を計上しております。次に2款1項1目清掃総務費でございますが、組合運営上必要となる派遣人件費など経常的経費で7,001万8千円を計上しております。次に18、19頁をお願いいたします。2款1項2目ごみ処理施設建設費でございますが、13節委託料の内、主なものは01ごみ処理施設建設に伴うごみ焼却施設整備・管理運営事業発注支援業務委託料といたしまして施設の供用開始時期が5年間延びたことに伴い、炉の規模の見直しのためのごみ量の再算定、見積り発注仕様書など基礎調査を実施するための経費として207万7千円、02環境影響評価調査業務委託料といたしまして、現建設予定地で引き続き事業を継続する場合、工事のエリアが広がることによる追加の四季調査の経費などで1,682万1千円、その他を含め、1,965万7千円でございます。なお、組合は現在建設予定地を再検討している段階でございます。建設予定地が決定することにより、事業スケジュールは明確になってくるものでありまして、ごみ処理施設建設費予算は事業スケジュールに連動するものです。今後、現在の事業スケジュールは変更となる場合もありますので、スケジュールの決定を見て議会へ報告をし、適切な予算措置を講じ執行していきたい

と考えておりますのでよろしくご理解くださるようお願いいたします。3款1項1目予備費につきましては、当初予算で見込むことができなかった経費の支出に流用するための経費といたしまして200万円を計上いたしております。次に歳入の主なものにつきましてご説明いたします。14、15頁をお願いいたします。2.歳入1款1項1目衛生費分担金でございますが、組合市町分担金として組合規約に基づく分担率によりまして、組合構成市町から分担金8,654万9千円を計上いたしております。次に2款1項1目衛生費国庫補助金でございますが、ごみ処理施設整備に基づき循環型社会形成推進交付金として629万9千円を計上いたしております。以上で説明を終わります。よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

議長（石川英之議員）

提案説明は終わりました。

これより議案第1号の質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご質疑なしと認めます。

続きまして、議案第2号の質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

4番（山内 悟議員）

この予算の中にごみ減量資源循環のためのごみ減量の施策はどこに反映しているのかをお聞きします。

議長（石川英之議員）

山内議員、もう一度。

4番（山内 悟議員）

ごみ減量の取り組みについて先ほどもいいましたように国の補助金をもらっています。循環型社会形成推進交付金をいただいております。である以上、ごみ減量の取り組みが反映してなきゃいけないと私はいけないと思いますけども、この予算書の中にどこにそのごみ減量の取り組みが反映しているのかをお聞きしているのです。

事務局長（小坂和正君）

今回の国の交付金は建設費に対する交付金として、環境アセスメント事業とアドバイザー事業の補助対象経費の3分の1を国の交付金の交付率で計上させていただいております。

す。ごみの減量施策については各市町ごとの政策・施策と考えておりますので組合では経費等は計上しておりません。

4番（山内 悟議員）

確かに今でいうと各市町で努力されていると思います。しかし先ほどもいいましたように、この循環型社会形成推進交付金というのは資源の循環型社会を作る構築するためにごみ減量と資源化に取り組むというのが前提になっていて、大型処理施設を造るのはそのための一部として施策の一つとして方法として作るというのが前提となっています。である以上、ごみ減量の取り組みがなければ、そういう施策が必要じゃないかと考えるんです。と申しますのは、愛知県下で平成22年度の資料ですけれども愛知県下の57自治体の内でトップ10の中にこの2市4町の自治体が3つ入ってくる。また、一人当たりですけど一人当たりのごみ量のトップ20の中に7つの自治体が知多半島入ってくる、こういう実態があるわけです。であるならば、各市町努力されていると思ってますけれども、さらなる努力が必要じゃないかと思っているからこそ、この交付金の活用について聞いているんです。

管理者（榊原純夫君）

おっしゃっていること、一理あると思いますが、究極的に合理的な施設を造ってその施設運用の時点で更にごみ循環型社会を更に増進していくというのが補助金の目的だと思っています。したがって今年度、補助金を使わせていただく対象はそういった環境にやさしい資源循環型の処理施設を造るための計画を作るための費用ですので、直接は使われておりませんが、長い目で見れば間接的に使われているということにつながりますと、つながるということですので、ご理解賜りますようお願いいたします。

4番（山内 悟議員）

私はこの今回の予算について、資源ごみ資源化減量化について十分ではないなという認識をしていますので、反対をさせていただきます。

議長（石川英之議員）

他にありませんか。

他にないようですので、これで質疑を終わります。

これより討論に入ります。

議案第1号及び議案第2号の議案について、

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより日程の順序に従って採決します。

議案第1号を採決します。

本案は、原案とおりに決定することに賛成の議員の挙手をお願いします。

(賛成者 挙手)

ありがとうございました。

賛成議員全員です。

よって、議案第1号は原案のとおり可決しました。

次に、議案第2号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の議員の挙手をお願いします。

(賛成者 挙手)

ありがとうございました。

賛成議員多数です。

よって、議案第2号は原案のとおり可決しました。

日程第7 定例監査報告

議長（石川英之議員）

日程第6、監査報告第1号を議題とします。

加藤美奈子（かとう みなこ）監査委員の報告をお願いします。

監査委員（加藤美奈子議員）

ただ今、議題となりました、平成25年監査報告第1号「定例監査報告」について申し上げます。

地方自治法第199条第4項の規定に基づき、知多南部広域環境組合について、定例監査を去る平成24年12月18日に実施いたしました。

この結果は、同条第9項の規定により、既に議長のお手元へ提出してありますが、その写しが議員各位に配付されておりますので、その概要を申し上げます。

平成24年度の事務処理、業務状況ともに概ね良好と認めました。今後とも、細心の注意を払い、財務事務の執行に努められますようお願いいたします。

以下、所見を申し上げます。

(1) 今後の体制について、今後、ごみ焼却施設の建設予定地が変更される可能性やそのことに伴う事業スケジュールの変更により、年度ごとの事務量、事業量が大きく変動する。新ごみ焼却施設を一日も早く、供用開始をするために十分に対応できる職員体制を整えていくことが必要である。(2) 課題への対応について、現在の組合の事業スケジュールについては組合設立時に予定されていたものと大きく変更されている。このことは現建設予定地が最終処分場跡地であり、地下埋設物の調査結果により判明し、それらへの対応策が必要となることになるものである。事業期間の延長は、2市3町のごみ処理の総事業コストの増額につながるものであり、課題の発生とその対応について、組合は明確な根拠をもち、説明責任を果たしていかなければならない。(3) 職員の研修について、組合は2市3町の一部事務組合であり、各市町の派遣職員に加え、県環境部OBの職員も在籍し、県との協議、各市町間の連絡調整など、多様な観点から勉強ができ、また環境廃棄物等に関する知識を必要とする職務である。このような機会を生かし、組合職員においては外部研修なども利用し、十分な研鑽^{けんざん}を積むことを望む。

以上が監査の所見であります。所見については、積極的に対応されるよう、強く望むものであります。

なお、予算の執行状況などにつきましても監査報告書に記載してありますので、お目とおしをいただきたいと存じます。

議長におかれましても、よろしくお取り計らいいただきますよう、お願いを申し上げます。報告といたします。

議長（石川英之議員）

監査委員の報告は終わりました。

これにご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご質疑なしと認めます。これで本報告を終わります。

以上で今定例会に付議されました事件の議事はすべて終了いたしました。

これをもちまして、平成25年第1回知多南部広域環境組合議会定例会を閉会いたします。

午後2時55分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成25年 月 日

知多南部広域環境組合議会

議長 石川英之

会議録署名議員 相羽助宣

会議録署名議員 石原壽朗